

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】盛岡市立厨川中学校

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	1年生 6クラス 194名（男子 99名、女子 95名） 授業者：齊藤儀満、工藤潤子、佐藤未沙子
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 保健体育（体育理論）「スポーツの多様性～技術、戦術、戦略～」
4 目標 (ねらい)	① 運動やスポーツには、特有の技術や戦術があり、その習得の仕方には一定の方法があることを理解する。 ② 過去の日本選手、日本チームの技術・戦術を分析し、今後の日本のメダル獲得に向けた戦術・戦略を予想する。 ③ 体育の授業（理論学習）からスポーツを「見る力」を養い、2020 東京オリンピックへの興味・関心を高める。
5 取組内容	1) 第1 学年保健体育の授業において、体育理論「スポーツの多様性～技術・戦術・戦略～」を学習した。 2) 題材：2016 リオデジャネイロオリンピック陸上男子 4×100m リレー 銀メダル獲得の裏側 *個人能力で劣る日本リレーチームが、銀メダルをとれた訳 *アンダーハンドパスのメリット・デメリット *2020 東京オリンピックに向けた更なる秘策  3) 2008 北京オリンピックにおいて、同じリレー競技（水泳）で銅メダルを獲得した（今回の講師）宮下さんに、銅メダルに隠された技術、戦術、戦略を質問した。

<p>6 主な成果</p>	<p>リレーや団体競技では、個人能力の単なる積み重ねでなく、チームとしての戦術、戦略が重要なことを学習できた。</p> <p>○日本水泳チームの戦略～宮下さんの講演から～</p> <ul style="list-style-type: none"> * 4人各自の明確な目標タイムの設定、それに向けた泳ぎ込み * 第1泳者：宮下選手（背泳ぎ）、第2泳者：北島選手（平泳ぎ）を軸に、前半リード、後半がまんのレース展開 * 引継ぎ（タッチ&スタート）の時間短縮  <p>個人的な能力では劣る日本人でも、戦術や戦略によっては世界と対等に競い合える可能性があることに気づくことができた。</p> <p>2020 東京オリンピックでの日本選手の活躍に、一層興味・関心を高めることができた。</p> <p><生徒の感想> 3年女子</p> <p>今日の講演を聞いて、宮下さんの恩師の言葉が印象に残りました。壁は誰にでもあり、誰にでも越えられるのだから、私もあきらめずに様々なことに挑戦しようと思いました。</p> <p>また、3つのCのお話も印象に残っています。自分の体験と重ね合わせたときに、確かにそうだなあと感じました。私のchangeは陸上部の仲間の言葉です。不真面目だった私が、周りの人の言葉などによって真面目に部活動に取り組むようになりました。ですから、「出会いに感謝」というのにとても共感しました。</p> <p>今、私は陸上の高跳びをしていて、将来、世界で活躍できる選手になり、「日本人は背が低いから跳べない」という常識を塗り替えたいという夢があります。一時あきらめようと思ったこともありましたが、今日の講演を聞いて、叶うまで頑張ってみようと思いました。ありがとうございました。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>I 早稲田大学オリパラ教育研究センターと共同で指導案を作成した。</p> <p>II 指導案の有効性の検証に関しては、早稲田大学の他、岩手県教育委員会指導主事にも協力いただいている。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践を繰り返す中での指導案（指導マニュアル）の検討、修正 ・他学年、他分野での指導案（指導マニュアル）の作成、提供 ・指導案の有効性を図る検証方法の構築
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>1年生で同様の単元、指導案で実践する。</p> <p>2・3年生用のオリパラ学習の指導案を共同作成し、実践する。</p>

